

利賀っ子だより



R 3 . 7 . 1 3

○ 利賀っ子の恵まれた環境

小学校、中学校、公民館が一緒になった複合教育施設「アーパス」で学ぶ子供たち。

中学生と一緒に生活するよさをこれまでも「利賀っ子だより」で紹介してきましたが、今週に入ってこんな姿がありました。

先週一週間、中学2年生は、「14歳の挑戦」で、村内の施設や事業所で様々な仕事を体験していました。小学生は朝の会で、「自分たちも中学2年生になったら、14歳の挑戦があるのか。」「どんなところでどんなことをするのか。」などを話題にしていました。その答えを知ろうと、体験してきた中学生に直接質問している小学生がいました。生の声を聞くことができるのは、何にも勝るよい機会だと思いました。

今週、月と金星と火星が最も接近して見える日があることを知ったIさん。詳しい話を聞こうと中学校の理科の先生を見つけて、質問していました。知りたいと思ったときにすぐに専門的な見識をもつ方がいてくださることは、子供たちの知識欲がさらに高まったり深まったりするよいきっかけになることと思います。これも他校にはない恵まれた環境だと思いました。

利賀小・中学校では、合同で漢字・計算大会を実施しています。それぞれの学年に応じた問題を解きますが、小学生・中学生が同じ空間でテストを受けます。文字を書く音しかしない集中した時間は、小学生にとって、テストに向かう心持ちを中学生の姿から学ぶ機会にもなっていると感じました。



金曜日、親子除草がありました。今年は、保護者の方に加えて、山村留学センターの指導員さん、留学生のホームステイ先の方々も協力してくださいました。こんなにたくさんの方々にご協力いただけるとは思っていなかったのも、子供たちの学習環境を整えることへの熱意を感じ、ありがたく思いました。

鎌の使い方を手本を示しながら教えてくださる方、どのように作業を進めると効率的なのかを助言してくださる方、子供たちにとって生活に生きる貴重な学びの時間となりました。



主任児童民生児童委員の方が、先日、理科の時間の学習に役立ててほしいとご自宅からわざわざメダカの卵や稚魚を学校に届けてくださいました。

恵まれた施設、子供たちのために惜しみなく力や知恵を与えてくださる地域の方々。

私たち教職員も、子供たちのよりよい教育活動のために、できることを精一杯していかなければと身が引き締まる思いがしました。

(高田 公美)